

おおぞらまえ

大空前遺跡(範囲確認調査)

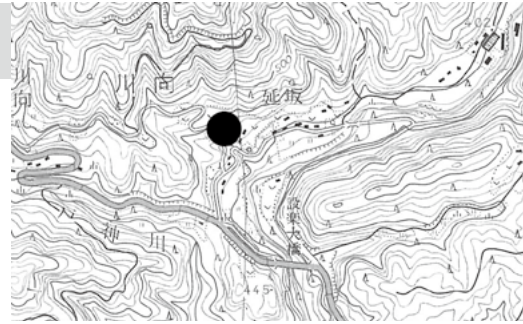
所在地 北設楽郡設楽町川向大空前・新直
(北緯35度6分49秒 東経137度33分54秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成28年6月

調査面積 60㎡

担当者 酒井俊彦・永井邦仁



調査地点(1/2.5万「田口」)

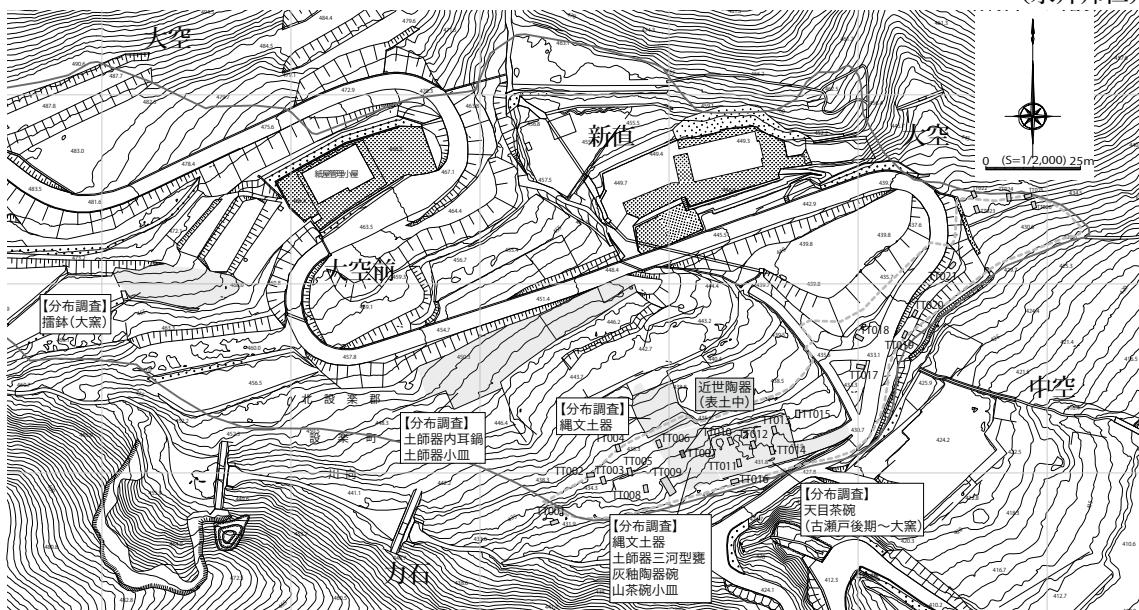
調査の経過 調査は、国土交通省による設楽ダム建設事業関連埋蔵文化財範囲確認調査として、愛知県教育委員会を通じた委託を受けて平成28年6月に行った。遺跡の現況は耕作地・宅地跡・山林である。トレンチは、1m×2mを25か所、2m×5mを1か所を設定した。

立地と環境 大空前遺跡は、川向地区の境川右岸に位置する。遺跡の標高は430～488mで、全体に斜面地で一部に小平場がみられる。本遺跡の南側には上ヲロウ・下ヲロウ遺跡が隣接している。また南西側の万瀬遺跡との間は、幅約15mの谷地形が存在する。

調査の概要 今年度の調査対象地は、ダム湛水域となる標高約440mより低位部分である。TT001～009は山林から草地へ転換する斜面地で、顕著な遺構はなかった。TT007からは近世陶器1点が出土している。TT010～016は宅地造成された平場で盛土下に旧表土が残存していたものの、遺物の出土はなかった。TT017～021は町道脇の造成地で、旧表土の残存もなかった。TT022～026は山林内で、TT023で近世以降の陶器が出土しているが顕著な遺構は検出されなかった。

本遺跡では、遺跡分布調査時に地表面で平安時代の土器が採集されているが、今回の調査では出土していない。この点は遺跡地が全体に斜面地で土石流堆積が各所にみられることとも関連していると考えられる。したがって、より上位の地点から流されてきた可能性も想定しておく必要がある。

(永井邦仁)



大空前遺跡の調査成果 (S=1/2,000)